



この記事がすごい！ 毎日新聞今週のこだわり4本

2024年1月14日号

編集／毎日新聞社カスタマーリレーション本部

変わる笑い 社会風刺コント集団の35年

14日(日)=1、3面



迫る

政治家らの特徴を捉えた物まねで人気の社会派コント集団「ザ・ニュースペーパー」(TNP)が昨年、結成35年を迎えました。TNPの動向に関心を持つ記者は2008年から舞台を追ってきましたが、最近は往年の笑いとはどうも違うようなのです。

昨年秋の舞台で、岸田フミオ首相=写真=を演じるメンバーが「減税したのに

なぜ支持率が下がるのでしょうか」などといったネタを繰り出して、岸田内閣の窮状を笑いに変えていても、客席のノリはいま一つ。一方、客席の笑いがひととき大きくなったのは、小泉ジュンイチロウ元首相が登場した場面でした。

笑いの変化は、政治家の勢いとも関係しているのでしょうか。

TNPのメンバーも入れ

替わりがありました。笑いの路線を巡る違いが明確になったことが一つの理由で、離脱もありました。また、社会が右寄りになったと指摘されるようになり「『アベ政治を許さない』と言うのが嫌い。今は全方位から笑いを取らないといけない」と語るメンバーもいます。

社会風刺を続けるTNPと元メンバーに迫ります。

論点

2024年の経済はどうなる

17日(水)=オピニオン面

安倍晋三元首相の経済政策アベノミクスを「アホノミクス」と批判した同志社大名誉教授でエコノミストの浜矩子さん=写真=に聞きました。「経済活動は人を幸せにできなければ意味がない」が信

念という浜さんは、今年の日本経済を「カオスか浄化か」と語ります。

混とん状態に陥るか、自己浄化作用が働き、ゆがみが解消されて、すっきりした場所に着地できるかだといいま

す。カギを握るマイナス金利政策の解除や賃金上昇についても聞きました。



石川県能登町の避難所

能登半島地震で、発生直後から石川県輪島市といった被災地の避難所などに日本環境感染学会の支援チームが入り、感染対策の指導などをしています。現地ではノロウイルスやイン

フルエンザなどの感染症の患者が増えています。隔離スペースが限られるなど厳しい状況になっています。密集を避けるなど、対策が急務となっています。

能登地震 感染症の対策急務

15日(月) 2面

特集 ワイド パレスチナの日常

17日(水)=夕刊2面

パレスチナに通い、民家に居候して生活に溶け込みながら取材する写真家、高橋美香さんが「語り部」活動をしています。長年、死と隣り合わせに生きてきた人々の素顔と日常を伝えています。

イスラエルとの衝突で注目が集まっていますが、「1人1人に名前があり、顔があり、自分たちと変わらない人間が生活している場所だということを知ってほしい」と訴えています。



避難民で混雑するパレスチナ自治区ガザ地区

竹橋の窓辺から

編集後記

能登半島地震の発生から2週間がたちました。現地ではいまだ被害の全容が見えず、厳しい寒さのなか不自由な避難生活が続いています。13、14日は大学の入学共通テスト。再開の目処が立たない学校も多くあるなか、被災地の受験生は厳しい環境で勉強を続けてきたことでしょうか。「冬来りなば春遠からじ」。春は必ずやってきます。被災地だけでなく全国の受験生のみなさん、これまでの努力が発揮されますことをお祈りしています。(木村葉子)

